全国農業新聞　2023年(令和５年)９月１日号に掲載（一部抜粋）

新就任　女性委員の活躍に期待！

国は男女共同参画基本計画で、女性農業委員の登用促進を進めている。

女性農業者が農業・農村において重要な役割を果たすことが期待されているなか、７月から８月にかけて多くの農業委員会が新体制に移行し、女性の農業委員・農地利用最適化推進委員が新たに就任した。

今回は、そんな女性委員の抱負や意気込みについて紹介する。

初の女性委員、２人誕生

天理市農業委員会

【奈良】天理市農業委員会（松井義憲会長）で初めて女性農業委員が誕生した。キュウリなど野菜を栽培する西悦子さんと水稲・ホウレンソウを栽培する門脇由喜子さんの２人だ。

西さんは、先輩女性農業者からの後押しがあり応募した。門脇さんは、所属している同市生活改善グループ連絡会からの推薦で、今年７月、委員に就任した。

２人は、若手農業者や新規就農者が現場で働きやすい環境作りに努めることや農地のあっせんによる農地利用の集積・集約化に貢献することをめざす。活動を通じて、「自分たちがお手本となって、これからも農業の大切さや楽しさを伝えながら、一緒に働く女性の仲間が増えたら」と抱負を語る。

松井会長は「女性の感性や視点で積極的に意見交換をしながら、これからの地域計画策定の活性化につながれば」と期待を込める。

（木村将史）

「農業委員として地元に貢献したい」と話す西さん（右）と門脇さん